

6 : 教科等① (小学校)

取組内容	テーマ	マス目を使った体育の授業 (体育科)		
	取組に至った経緯	体育の授業を行うときは、マスクをとるのでしっかりと距離をとらなければならないが、低学年では難しいためマス目を作った。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	低学年でも距離をとることができた。		
	課題等	特になし		

【補足資料】 6 : 教科等① (小学校)

「マス目を使った体育の授業」



この中で、準備体操や縄跳びなど行う。

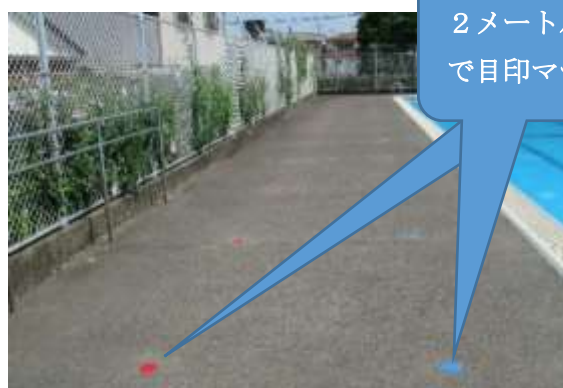
6：教科等②（小学校）

取組内容	テーマ	水泳指導でのソーシャルディスタンス（体育科）		
	取組に至った経緯	<p>令和2年度は中止になった水泳指導だが、令和3年度は「コロナ禍ではあるが感染予防をして実施」との通知があったため、体育部・保健部が中心となり話し合った。</p> <p>プールでは、マスクをつけていない為、無言で行うことや、低学年は距離をとることが難しいなどの意見が出た。</p> <p>そこで、プールサイドに2メートル間隔でマークを付け、そこに並ぶことによって距離を保てるよう工夫した。また、友だちのタオルと重ならないようにするため、マイハンガーにかけることとした。</p> <p>指導の為、声を出さなくてはならない教師は、水泳用マスクを使用した。</p>		
	実施時期	令和3年6月～7月	補足資料	有
成果	<p>マークがあることで、低学年も距離を取って並ぶことができた。</p> <p>また、全てのプールサイドにマークを付けたため、それを目印に反対側に泳ぐことができ、プールの中でも距離が取れた。</p>			

【補足資料】6：教科等②（小学校）

水泳学習でのソーシャルディスタンス

1 プールサイドのマーク



2 マイハンガー

マイハンガーにかけるので、友だちのタオルにふれないし、間違えない



6 : 教科等③ (中学校)

取組内容	テーマ	感染症の予防（保健体育科 保健分野）		
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染症が流行する中で、感染症の予防について学習をすることは重要であると考え、今回の実践に至った。</p> <p>また、今回の取組においては、感染症はどのように発生するのか、どのような特徴があるのか等についても取り上げ、それらを理解した上で具体的にどのような予防策を実践できるかを考えられるようにした。</p>		
	実施時期	令和3年5月	補足資料	有
成果と課題	成果	生徒が感染症予防の三原則を理解し、「今、自分たちにできること」を考え実践できるようになった。		
	課題等	感染症の予防と合わせて、ストレスへの対処など心の健康についての学習も行っていく必要がある。		



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

第3学年〇組 保健体育科（保健分野）学習指導案

授業者 内田 貴美子
（埼玉大学教育学部附属中学校）

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 オ 感染症の予防**2 単元について**

本単元では、人間の健康は主体と環境が関わり合って成り立つこと、健康を保持増進し疾病を予防するためには、それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにすることを目指している。「オ 感染症の予防」では、感染症は適切な対策を講ずることによって感染のリスクを軽減することができること、社会環境や主体の抵抗力、栄養状態などが相互に複雑に関係する中で感染症が発病することを理解できるようにする。その際、病原体の種類によって感染経路が異なることにも触れる。また、エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。なお、指導に当たっては発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。

3 生徒の実態

本学級の生徒は学習意欲が高く、日頃から熱心に学習に取り組んでいる。また、学級活動や生徒会活動などにおいても責任感を持ち、それぞれの役割を果たそうとする姿勢がみられる。

コロナ禍においては、感染症の予防を講じつつ安全に学校生活を送るため、保健委員を中心に感染症予防の呼びかけをしたり、消毒作業を行ったりするなど予防への意識が高い生徒が多い。

一方、「大切だと言われているから、予防に取り組んでいる」というように取組を単なる規範と受け止めているような生徒も見受けられ、感染症の予防について科学的な根拠を基に考え、理解したことを筋道立てて表現できる生徒は多くない。

4 教師の指導観

本校の研究主題を受け、各教科等共通の二つの研究内容に重点を置いて指導していく。

(1) 思考力、判断力、表現力等を中心とした資質・能力の育成のための単元・題材計画の作成

健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れ、生徒が課題の解決に向けて思考・判断・表現をする過程で既存の知識をより科学的に理解できるようにするなど、思考・判断・表現の場面設定における知識・技能、主体的に学習に取り組む態度との関連を図り、計画に位置付ける。

(2) 生徒が自らの学習の評価を基に、学習を改善していくことができる形成的評価の実践

効果的な形成的評価のため、教師は生徒の声をよく聴くこと、評価規準を基に予想される生徒の反応から具体的な手立てや支援の方法を整理して観察の視点を明確にすること、生徒の学習状況を確認できるようワークシートの項立てを工夫することを行う。

5 単元の目標

- (1) 感染症は環境と主体の条件が関わって起こること、感染のリスクを軽減する適切な予防の方法を身に付ける必要があることについて理解できるようにする。〈知識及び技能〉
- (2) 健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組む態度を身に付けることができるようにする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

8 本時の学習と指導（1／2時）

(1) ねらい

- ・感染症の起こり方や予防について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

〈知識及び技能〉

- ・感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、感染のリスクを軽減し健康を保持増進する適切な方法を選択し、筋道を立てて伝え合おうとしている。

〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備…プロジェクター、ホワイトボード、資料、ワークシート

(3) 展開

	学習内容・学習活動	学習形態	教師の指導・支援（◆評価規準と方法）
導入 5分	1 コロナ禍の個人及び社会生活を振り返る。	一斉	○コロナ禍において変化した日常生活を想起するように促す。 ○想起したことを聞き、予防に関わることをピックアップして全体で共有する。
展開 3 8 分	2 本時のねらいを知り、次の課題と活動に取り組む。		○本時のねらいを提示し、3～4人のグループで課題と活動に取り組むよう指示する。
	【ねらい】感染症の起こり方や適切な予防方法を知り、自分たちができることを考えよう。		
	(1) インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、ノロウイルス感染症の発生状況を知る。	グループ	○資料から、コロナ禍では二つの感染症の患者数が減少したことに気付くように促す。
	【課題】コロナ禍における感染症の予防の取組の効果から、インフルエンザやノロウイルス感染症の患者数は大幅に減少したと予想される。一方、同じ感染症でも新型コロナウイルス感染症の患者数は減少していない。新型コロナウイルス感染症の流行を抑えるには、どのような対策が必要だろうか。		
	(2) 三つの感染症の発生状況から、感染症の起こり方や適切な予防方法を考えるとともに、新型コロナウイルス感染症の対策を考える。 〈予想される生徒の反応〉 ・新型コロナは無症状感染者がいる。 ・海外からの人流を抑制する。		○意見交換を個別に支援する。【研究内容2】 ○生徒の発言やワークシートの記述からキーワードを拾い、板書する。 ○板書から、「自分たちにできること」と「できないこと」を再確認するように促し、「自分たちにできること」を考えるよう助言する。

【補足資料】6：教科等（中学校）

<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンを打つ。 ・抵抗力を高める。 ・人混みを避ける。 ・消毒回数を増やす。 ・リモート授業にする。 <p>(3) いくつかのグループの意見を共有する。</p>	全体	<p>○それぞれの感染症の特徴を踏まえた適切な予防方法を考えられるように助言する。</p> <p>○全体で意見を共有しながら、指導すべき内容をおさえる。</p>
<p>－指導すべき内容－</p> <p>感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。感染症の発生には、環境や主体の条件が関わっていること。感染症の多くは、①発生源をなくすこと、②感染経路を遮断すること、③主体の抵抗力を高めること（感染症予防の三原則）によって予防できること ※病原体の種類によって感染経路が異なることにも触れる</p>		
<p>(4) 感染症予防の三原則に基づき、グループで考えた対策を整理して発表する。</p>	グループ	<p>○意見交換を個別に支援する。【研究内容2】</p>
<p>◆〈思－①〉【観察・ワークシート】</p> <p>感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、感染のリスクを軽減し健康を保持増進する適切な方法を選択し、筋道を立てて伝え合おうとしている。</p> <p>〈「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取れることや感染症の特徴などを個別に説明する。 ・感染症の予防の取組として、日常生活で実践していることを想起させる。 ・日常生活における取組が、なぜ感染症の予防に有効であるのか考えられるように促す。 		
<p>◆〈知－①〉【観察・ワークシート】</p> <p>感染症の起こり方や予防について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</p> <p>〈「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生活を振り返るよう促し、学習したこととの関連に気付くことができるよう助言する。 ・感染症の予防の取組と予防の三原則の関連に気付くことができるように促す。 		
<p>3 本時のまとめを行う。</p> <p>(1) 学習した内容をワークシートにまとめる。</p> <p>(2) 何人かの意見を共有する。</p> <p>〈記述及び発言のまとめ例〉</p> <p>○感染症には、感染源・感染経路・主体の抵抗力の三つが関わっている。それぞれに対策方法があるが、主体の抵抗力の対策は流行状況に関わらず日々行うべきだと思う。</p> <p>○感染症は、それぞれ感染経路や病原体の潜伏期間が異なる。感染源・感染経路・主体の抵抗力の三つとも対策できれば最も効果があるが、どれか一つでも完璧に対策することで予防に効果がある。</p>	一斉全体	<p>○学習内容をワークシートにまとめるよう指示する。</p> <p>○ワークシートに記入した内容について、友達の発表や教師の説明を聞きながら確かめる。</p> <p>○感染した人を差別したり偏見を持ったりしないことを伝える。</p>

【参考文献】 七木田 文彦(2021)『保健授業の挑戦 - 学びの創造とデザイン - 』大修館書店
佐藤 学 (2009)『教師花伝書 - 専門家として成長するために - 』小学館

6 : 教科等④ (中学校)

取組内容	テーマ	特別支援学級生徒への手洗い指導（自立活動）	
	取組に至った経緯	<p>特別支援学級の担任より要請があり、養護教諭がゲストティーチャーとして実施。</p> <p>①新型コロナウイルスをはじめとした感染症の感染経路と予防方法</p> <p>②なぜ手を洗わなければならないのか</p> <p>③マクドナルドクルー・手術前の医師の手洗いの動画を視聴しながら洗い方を確認</p> <p>④手を洗うタイミングなどをパワーポイントで指導後、学級担任がブラックライトを使った手洗い実験を実施。</p>	
	実施時期	令和3年5月	
成果と課題	成果	<p>指導後、「自分の体と大切な人を守るために手洗いをしっかりします！」という感想が聞けたこと。指導前より手を洗う時間が長くなった、石けんの減りが早くなった。</p>	
	課題等	<p>指導後、時間が経過していったり、感染状況が落ち着いたりすると甘くなるので、保健委員を使った呼びかけや保健だよりなどで引き続き啓発していきたい。</p>	

6 : 教科等⑤ (中学校)

取組内容	テーマ	With コロナ ～〇〇中学校 新型コロナウイルス感染防止対策～ (保健体育科 保健分野)		
	取組に至った経緯	<p>校内で生徒・教職員が毎日実践している感染症対策を『発生源の対策』『感染経路の対策』『抵抗力を高める対策』に分類することで、3学年の保健分野「感染症の予防」で活用できる教材ができるのではないかと考え、養護教諭・保健体育科教諭・生徒保健委員が協力してパワーポイント資料を作成し、授業で活用した。</p>		
	実施時期	令和2年12月	補足資料	有
成果と課題	成果	<p>感染症の予防について、自分の行動を日常の学校生活に関連づけて考えることができるようになった。</p> <p>特に登校前の健康観察や手洗いの重要性について理解が深まり、健康観察表を忘れる生徒の減少、液体石けんや消毒液の消費が多くなる等の変化が見られた。</p>		
	課題等	<p>3学期になると学習直後のような危機感が薄れる生徒もいた。定期的に行動意欲を持続できる情報提供や指導が必要だと感じた。</p>		

With コロナ ～〇〇中学校 新型コロナウイルス感染防止対策～

本校で毎日実践している新型コロナウイルス感染症の取組を、保健分野『感染症の予防』の教科書の内容に当てはめて指導資料を作成して授業で活用した。

この内容は、
教科書から抜粋

それぞれの対策について、日常の活動を写真や動画で見せることで教科書の内容と実体験を結びつける



〇〇中学校で行った新型コロナウイルス感染防止の取組

感染源の対策

- 1 登校前の健康観察の徹底
 - ・体調不良の生徒は登校を控え、自宅で休養・経過観察を行う
 - ・健康観察表の『健康状態』『朝の体温』『家族の健康状態』『保護者印』が1つでも未記入の生徒は、昇降口で教員による健康観察・検温を行ってから教室に入る

感染経路の対策

- 1 手洗いの徹底
 - ・朝の会で、ハンカチを挙げて健康観察を行う。保健委員はハンカチの携帯状況を点検する
 - ・保健委員が実践する手洗い動画を視聴して正しい手の洗い方を学習する
 - ・手を洗った後に、洗い残しをブラックライトでチェックする（希望者のみ）
- 2 換気の徹底
 - ・教室の対角線上に、『空気を入れカエル』を設置して換気を視覚化する
 - ・教室内に『換気・消毒チェック表』を掲示して、実行できたら保健委員と担任が○を記入する
- 3 ソーシャルディスタンスの確保
 - ・実際の距離がわかるように、教室棟の各階の廊下に1mごとに掲示物を掲示する

抵抗力を高める対策

- 1 健康観察表に「就寝時刻」「起床時刻」「朝食摂取」を記入する（長期休業期間は、運動時間・メディア使用時間も記入）。毎日の自分の生活を可視化して、規則正しい生活を継続する
- 2 昼休みに「外で遊ぼうキャンペーン」（体育委員会）、「お昼寝キャンペーン」（保健委員会）など、生徒委員会が主体となって、三密を避けながら体力や抵抗力を高める活動を行う